

佃島小学校 PTA を考える会（要旨）

平成 18 年 11 月 11 日（土）午後 6 時～8 時 50 分

佃島小学校視聴覚室において、保護者 38 名、教員 2 名出席の元、開催。

1. この会を開催するにあたって（司会進行役：17 年度副会長）

今年度佃島小学校の PTA は、5 月の PTA 総会の後 17 年度役員会で暫定的に運営されてきたが、現在に至るまで役員が決まらぬままであり、数々の問題点も浮上してきている。

そこで 17 年度役員会・再選出委員会より校長先生に、PTA について改めて学校側の見解を伺った上、早急に全会員に向けて現状の説明等をする会を開催してほしいと要望したところ、学校ではなく PTA の方で主催すべきものではないか、もちろんそれには学校も参加するということであったので全保護者にお知らせしこの会を催すこととなった。

2. 再選出委員会報告

今回再選出委員会は発足後 6 名（各学年代表）の委員で、おおよそ週一回、副校長先生あるいは金木先生立ち会いの元、長を決めないという形で活動を進めていった。公募制という案も学校側から提案されたが、検討の結果、時間がかかり過ぎるためやめ、17 年度役員の中、またはまったく新しい候補者も含めて検討しひとりひとり交渉した。しかしここで、会長候補であった方の立ち上げたブログが障害となり、すべて断られ現在活動は前に進めない状態である。

このブログは、PTA 会長の実名を挙げたり一方的な論調によって記載しているものであるため、今後の佃島小学校 PTA 活動の大きな妨げになる。学校、区教委あるいは公安を通してでもこのブログを止めるように申し入れをしてもらえないか問い合わせしているところである。

3. 参加者のご意見・質問・それに対する応答（順番は多少前後しています）

■総会にて新役員候補者が否決された件について

問 17 年度役員は 17 年度の議案である 18 年度役員選出案を上程した当事者であり、総会にてその案を可決し、PTA 活動をスムーズに進行させる義務と責任があったのではないかと。

◆ 4 月に行われた最後の 17 年度運営委員会の時点で、すべての選出は終わっておらず、報告されている部分についても問題があったため承認されていない。17 年度役員は当時の選出委員会に対して説明を求め学校にもきちんとした管理を再三お願いしたが、納得のいく説明のないまま、「現在わが校の PTA 規約では選出委員会はまったく独立した組織であり、総会に上程されるまでどんな選出が為されようとも、それ以外の者は異議を唱えることはできない」とのことで、17 年度役員が関与することは不可能であった。またこのまま総会に挙げることに對して不安を覚えた役員より、学校に対し何度も調整を申し入れたが受け入れられなかった。以前の選出委員経験者から見ると、佃島小学校の役員選出委

員会は従来規約に基づき絶対的な権限をもって、年間の活動に支障がないような人選を提示し、総会以前に行われる各学級の委員選出、全体会もスムーズに行われるようにしなければならない責任を負っているのであるから、今回の件に對しての責任は役員ではなく選出委員会にあるのではないかと。（17 年度役員及び以前選出委員経験者）

問 18 年度役員選出委員会は従来通りの選出方法にて行われていたのか。17 年度役員選出委員の引き継ぎ申し送りはきちんと為されていたのか

◆ 途中まで選出委員会に参加していたが、確かに最初は従来通りの方法で選出がスタートしたので、17 年度選出委員の申し送りはきちんと行われたと考えてよいと思う。しかしその後、選出委員長より役員の任期について検討するという提案がなされ、承諾した役員の誰を断り誰を入れ替えるかというような話になっていった。さらにその後会長を変えるという方針に変更され、そのようなやり方に対して不審感をもった 17 年度役員にきちんとした説明もないまま、新役員の選出が行われていた。（18 年度選出委員/17 年度会長/17 年度役員）

問 18 年度役員候補者だった方々は、選出委員会と 17 年度役員たちとのそのような経緯や、状況、また役員が総入れ替えになっていることを知っていた上で次年度役員を引き受けたのか。

◆ 会長・副会長候補者はゴタゴタがあることを知っていたが、その他の候補者は知らなかった。副会長候補としては、引き受けるに当たってそういうゴタゴタをすべて解決してもらってから受けたいという要請をしたところ、選出委員長からは 17 年度役員にひとりひとり電話して事情はすべてクリアにしたという説明を受けていた。しかし今話を聞くと、17 年度役員と 18 年度選出委員の話に大きな食い違いを感じる。しかし 18 年度選出委員がいないこの場で、その話を自分がすることは妥当ではないと考える。（18 年度副会長候補者）

■ブログについて

◆ 18 年度会長候補者の立ち上げたブログについては、今後の PTA を組織するために相当の妨げになっており、このようなものを使って一方的に自分本位の情報を発信するという行為はやめてもらわなければ佃島小学校 PTA は先へ進むことができない。

さらに現在大きな問題としては、このブログが「にゅーあきぼどつとこむ」という、子どもに見せたくないリンクサイトに紹介されてしまい、Google で「佃島小学校」と検索するとそのページが上位に浮上してくるという現象も起きている。「自分の学校を検索する」ことは学習の中でも行われており、そこに見せたくないページが出てしまうということは子どもに対して好ましいことではない。また「佃島小学校」自体がよくない興味の対象になってしまうことも考えられる。「あきぼ…」サイトには個人で削除依頼しても応じてもらえないので、学校や区教委に削除依頼してもらいたい旨お願いしたが、「表現の自由は妨げられない」等の理由で対処してもらえていない。子どもへの悪影響を考え、早急に取り下げるように保護者全体で要望していく必要がある。（再選出委員会）

◆ そのブログを立ち上げねばならなかった事情を考慮すべきではないのか。17 年度

役員と18年度選出委員、18年度新役員候補たちが和解しなければ解決しない。今回18年度会長候補者と選出委員長のご主人にもこの会に出席することを薦めたが、彼らは「この会是非公式な会なので出席できないということだった。今、彼らがないこの席でブログの事を云々言うのは彼らの批判につながるのを避けるべきではないか。(18年度副会長候補者/役員候補者)

- ◆ あのブログが不相当であるという話をしているのだから、当然その主宰者の批判になるのは避けられない。また避ける必要もないのではないか。(再選出委員)
- ◆ 「あきば…」サイトにリンクされている件については、今日始めて知ったのだが、個人的には好ましくないことであり対処する必要ありと考える。自分たちはブログの主宰者である彼らの仲間としてこの会に出席しているわけではないけれども、連絡も取っている間柄であり、話せばわかる人であると思っているので、「あきば…」の件については、彼の方からも何とかしてもらおう方法がないのか話をしてみる。(18年度副会長候補者)

■ PTA 会計について

- ◆ ブログやマスコミにいかにもPTA会計がおかしいようなことが書かれていて、そういう誤解も今の混乱を招いているのではないかと思うが、PTA会計が不正だと言っている方々は何が目的なのかわからない。何年も前の会計についても調べて問題ないことを確認しているし、当時のPTAにおいてきちんと運営委員会で報告され承認されている。そういうものをまた持ち出して今の会計と結びつけ、その会計担当者があやしいようなことを言ったりされると本当に引き受け手がいなくなってしまう。(17年度会長)
- ◆ 現在の会計は、前選出委員長が数年前に「処理の仕方が不相当である」とご意見を言ってきた時に、勉強会まで開いてご指導いただき作ったシステムに基づいているものである。帳簿類の開示も3年前からは毎年行っており、以前のものも含めて見ていただいている。運営委員会の席上でもはっきりと前選出委員長本人が「間違いない」と発言されている。それを今年になって開示をしても見にも来ず、何も直接は言って来られないにも関わらず、そのご主人が関わっているはずのブログに、あたかも何か隠しているように書かれるのは非常に心外である。疑問があるなら直接言ってくるべきだと思う。(17年度会計担当者)
- ◆ 校庭開放委託金の未返還について、いかにも以前のPTA会長が関わっていてそれを昨年のPTA役員も事情を知っていて隠しているような言われ方をしているが、7〜4年前当時の教頭先生にすべての金銭管理をお願いしていた時に起こったことである。昨年度になり、区にその返還が2名の元教頭先生よりされることになったが、区教委の依頼で処理上昨年度のPTA会計をトンネルにして行うことになった。それが入って出て行ったことで昨年度の決算報告書がわかりにくくなったため、総会前に補足資料として手紙を出した。その手紙も区教委の指示で添削されたため一般会員には明確に理解することができないものになってしまった。にもかかわらず、区教委は朝日新聞の取材に対して当時のPTAがいかにも関わっているような回答をしたために、あのような書かれ方になってしまい憤りを感じている。(17年度役員)

- ◆ 朝日新聞には「都教委はふたりの元教頭先生の処分を検討している」とあるが、学校は知っているなら何らかの報告をこれに対してしてほしい。こういうこともうやむやにする学校側の態度も、何を言ってもいいことにつながり、何でもPTAのせいになってしまうのではないか。(再選出委員)
- ◆ 会計に対して納得していないと言っている方は、本当は納得しているのに「わからない」と言ってわざと火をつけているのではないか。(再選出委員)

■ 臨時総会について

- ◆ ブログの件にしても会計の件にしてもそうであるが、やはり直接両方の話を聞かないと解決しないと思う。総会后、自分たちも含めて話し合いの場や臨時総会を開いてくれるよう学校、または17年度役員に要請したが受け入れられなかった。(18年度副会長候補者/役員候補者)
- ◆ 臨時総会については、総会直後17年度役員の方でも開いてもらえるように学校に要請していたが、時間が取れないとの理由で開催できなかった。またその時は私たちにもそれを招集する権利はないと学校から言われていた。18年度役員候補者の方々から提案のあった話し合いについては、出席者に疑問(なぜか“総会前に体調を崩されて辞任されていると聞いていた選出委員長”のご主人が加わっておりその立場がわからなかった)がある上に、それまでの成り行きから学校側が中立の立場ではなく完全に18年度選出委員会や役員候補者たちと結託していると考えられたので、他に立ち会ってくれる人がいない限り応じられないと伝えていた。この考える会については全保護者にお知らせしているものであるのだから、この会こそ直接話ができる会であったと考える。(17年度会長)
- ◆ 再選出委員会も臨時総会開催を希望していたが、臨時総会については妥当な目的を持ってきちんとした手順を踏み開催しないと成立しないのではないかという声も聞いていたので、役員選出ができていない現状では開催を提案できなかった。しかしこのような話し合いの会から臨時総会の要望を出し、臨時総会を開催するという方法もある。(再選出委員)

4. まとめ(司会)

再選出が進んでいないのには、子どものためを思ってボランティアでやっているPTA活動に対して、名前を出されて個人攻撃のようなことが行われる状況になってしまっている現在の佃島小学校に対して皆が危機感と恐怖感を抱いているためである。再選出委員会によれば、もし平和な学校であれば役員を引き受けると言っている人もたくさんいるということである。今回不十分であったかもしれないが、このような会を開くことによって、ひとりでも多くの人にPTAに対して関心を持ってもらい問題解決に向かっていけたらそれが成果ではないだろうか。

また「あきば…」サイトの件については、やはりきちんとこの場で、「削除してほしい。学校にも何らかの対応をしてほしい」ということが多くの保護者の要望として出たことを確認したい。誰が何をどんな形で言ってもよいということではない。多くの保護者がそれを是としないのであれば、やはり学校としても何らかの対応をすべきではないか。